小型電動車で集落アクセス

廿日市の浅原地区

広工大の研究室、今月末まで実験

広島工業大（広島市佐伯区）工学部の今川朱美准教授（都市地域計画）の研究室が、山間部の廿日市市浅原地区でカート型の小型電動自動車「グリーンスローモビリティ（グリスロ）」の運行実験に取り組んでいる。10月末までの試行で幹線道から離れた集落へのアクセス改善を探り、導入への足掛かりにする。

広島市の民間コンサルタント会社と共同で取り組み、業者から運転者を含め4人乗りのゴルフカートを改造した車両1台を借りた。1度の充電で約30キロ走れるという。時速は20キロ前後で、研究室の学生が運転する。浅原交流会館から小田原集落、冷川集落をそれぞれ往復する2ルートで11日からスタート。18日から同館―市野集落の往復ルートに変更し、25日からは車両を2台に増やして3ルートを同時運行する。

浅原地区には、市佐伯支所付近と同館周辺を結ぶ市の自主運行バスが走るが、各集落までは通っていない。市は、同地区内でデマンド（予約）型バスを運行しているが、道幅が狭く、自宅前までは行けない場所もあるという。このため、車体が小さく環境面にも配慮したグリスロが有効として実験することにした。

浅原地区で試運行している小型電動自動車

普段は近所の人の車に乗せてもらい、週1回出掛けるという久保由子さん(95)は「交流会館まで行ければ市のバスにも乗れるので、買い物に行きやすくなる」と期待していた。

運行実験では利用者にアンケートして、乗り心地や適正な運賃についても調べる。今川准教授は「運行主体を誰に任せるかなど、導入への課題を探り、行政の施策づくりの参考にしてもらいたい」と話す。

（木下順平）